

2021.9  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

# とみや 富薬

9号

第43巻  
No.386



アキノキリンソウ *Solidago virgaurea* L. subsp. *asiatica* Kitm.

(キク科 *Compositae*)

**生薬** イッシオウカ（一枝黄花） 開花期（8－9月）に地上部を刈り取り、陽乾する。

**成分** フラボノイド: quercetin, quercitrin, rutin, kaempferol、フェノール類: caffeic acid、その他: サポニン類、タンニン等

**効能** 民間薬として腎炎、膀胱炎、風邪の頭痛に煎じて服用。咽の痛みに煎液でうがい、虫刺されやけがに煎液で洗う。

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



国内のどこでも普通に見られる多年草で、日当たりのよい山地を好んで生育します。草丈は30–60cmで直立します。葉は互生し、上部の葉は披針形、下部は卵形で有翼の柄があります。晩夏から秋にかけて茎先に穂状に11–17個の小花を咲かせます。花冠は黄色で広線形の舌状花（雌花）と整正の筒状花（両性花）を付けます。秋に咲くキリンソウ（ベンケイソウ科 *Phedimus aizoon* var. *floribundus*）の意味で命名されました。別名のアワダチソウは穂状の花が麴が醗酵した時の泡のように見えるところから付けられたと言われています。

基準亜種ヨウシュアキノキリンソウ (*S. virgaurea* subsp. *virgaurea*) は南西アジア、ヨーロッパ、北アフリカの荒地や牧草地、岩場などに自生し、草丈は30–100cmとアキノキリンソウより大型で、下部の葉は卵形、上部は狭楕円形で鋸歯があり互生します。茎頂に散房状に花序を出し、1–2cmの黄色の花を咲かせます。ヨーロッパ種の用い方は日本の本草書にも影響を与え、『和蘭薬鏡』(1820) に「金花草」の名で収載されています。「金花草又秋のきりんそう、共に花戸の名、ソリダゴ・ヒルガアウレア（羅）、ギェルデンルーデ（蘭）」とあり、金花草、ギェルデンルーデは共にヨウシュアキノキリンソウの英名ゴールデンロッド（golden rod）と同義語で、ソリダゴ・ヒルガアウレアはラテン学名と思われます。属名の *Solidago* は *solidus*（完全）に接尾語の *ago*（状態）の付いた形で、傷薬として用いたことから付けられたと言われています。『和蘭薬鏡』の本文にも「試効 葉、温暖開達、微収瀉す。愈創の殊効を称す、内外創、潰瘍瘻瘻並に断の腐壊、咽喉口中潰爛等を浄刷し癒すに用う。吐血、下血、赤痢、下利を止む。利尿の効あり、小便閉を通し、膀胱の結石を碎き、腎痛石淋を療す。肝脾の壅塞を疏解す。水煎泡利或は細末とし服す」と、現在の薬効にも通じるものが列挙されています。

中国清代の本草書『本草綱目拾遺』(1765) に「一枝蒿 紹郡の府佐李秉文は久しく西域地方を旅行した人だが、その話に、巴里坤に一種の薬が出る。一枝蒿と名け、深山中に生じ、枝葉がなくして一本だけ土上に苗える。気味は蒿のようだ。四月の頃に牧馬の使用人が馬を駆って山に入り、その草を採取して携えて帰り、膏に煎じて遠方の旅行者に売っている。蘭州まで行商人が持って来て売っている。血を活し、毒を解し、一切の積滞、沈痼、陰寒等の疾を去り、風を駆り、怯を理す」とありますが、『中薬大辞典』(1978)にある「一枝黄花」のミヤマアキノキリンソウ (*S. virgaurea* subsp. *leiocarpa*) と同一かどうかは分かりません。ミヤマアキノキリンソウは樺太、千島、朝鮮、満州や国内では北海道、東北、中部地方の亜高山帯の草地や礫地、林縁などに見られる多年草で、草丈は20–50cmとアキノキリンソウより小型、上部や花序に黄褐色の縮毛を密生します。8–9月頃茎先に穂状の頭花を上げ、1頭花あたり20–60個、6.5–8mmの小黄色花を密集して咲かせるところからコガネギクの別名もあります。

以上アキノキリンソウ属3種以外に同属で忘れてはならない植物があります。帰化植物のセイタカアワダチソウ (*S. altissima*) は北アメリカ原産で、昭和40年代には日本全国に広がり急激な繁殖を見せたことは記憶に新しいと思います。飛散する種子と地下茎による繁殖力に加え、根から周囲の植物の成長を抑制する化学物質を出してスキなどの在来種を駆逐し、自らの繁殖を助け、大きな群落を作りました。草丈は1–2mに達し、良く肥えた土地では3–4mほどにもなる大型植物で、10–11月に円錐花序を咲かせ、4mmほどの濃黄色の小花を多数つけます。日本では厄介者扱いの植物ですが、北アメリカでは蜜原植物として重要であるとともに他のアキノキリンソウ植物と同様の薬効も期待される薬用ハーブでもあります。 (村上守一 記)